



NPO法人「e子育てセンター」
(広島市安佐南区)代表理事
森崎智美さん(46)

「子育ての相談がしにくくなった」「育児の負担感が増えた」。NPO法人 広島市安佐南区)が4月に実施したインターネット調査

育児相談やオンライン親子交流

つながり続けて安らぎ



「子育て中の親とのつながりを持ち続けたい」。アンケート結果を手に話す森崎さん。

で、そんな訴えが相次いだ。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛は、乳幼児を育てる親たちの孤立を深めた。

乳幼児と親たちが交流できるオープンスペースを同区祇園と緑井の2カ所で運営している同法人。感染リスクを避けるため、3〜5月にはオープンスペースの休業を余儀なくされた。自治体による乳幼児の集団健診が休止になる中、休業中も電話やメールで育児相談を受け付けた。

「子どもの成長は待ったなし。親の悩みや不安を受け止め、つながりを築く場を絶やしたくなかった」と同法人の代表理事、森崎智美さん(46)は言う。

自宅に閉じこもりがちな親子向けにと、5月にオンライン「おしゃべり広場」を始めた。スマートフォンなどの画面越しに手遊びを楽しんでもらったり、ランチ会を開いたり。幼稚園選定の相談会も催した。

6月、感染防止策を取りながらオープンスペースを再開した。「ありがたさが分かった」「心のオアシスです」。利用者の声が背中を押す。

しかし、感染が再拡大する中でオープンスペースの利用制限は続く。オンラインによる集いといった新たな取り組みは、思うようにならないこともある。

それでも森崎さんは言い切る。「つながることを諦めたくない。新米のママとパパに『心配し続けなくて大丈夫ですよ』と伝え続けたい」。かつて自分たちが周囲から声を掛けてもらい、ふっと肩の力が抜けたように。社会の分断に拍車を掛けるコロナ禍だからこそ、思いやりのある、何げないひと言が大事なのだと信じる。

(小林可奈)